

# 小地域福祉活動 事例集

Part 2

～あなたの福祉がきっとある～



社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会



## はじめに

「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」ということは誰もが願うことです。

誰もが安心して暮らすことのできる地域づくりには、住民が主体となって行動することが重要になります。

本冊子では、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）が地域と協働で作り上げた仕組みや、既に活動している住民同士での支え合い・助け合い活動を事例として紹介しております。

これらの事例を通して、それぞれの地域における福祉活動の参考にしていただきたいと思い、この度 Part2を作成いたしました。

令和4年12月



# 目 次

1. 小地域福祉活動とは	
小地域福祉活動の内容・展開	1
2. 事例紹介	
マンション住民の憩いの場 ① 中 区 見晴らしカフェ	2
デジタル化先進自治会の取り組み ② 中 区 ホームページやLINEを活用した自治会活動	3
中学生が地域活動に ③ 中 区 中学生ボランティア(家事支援活動)	4
地域の子どもは地域全体で育てる! ④ 東 区 夏休み学習ボランティア事業	5
くらしをちょっとゆたかに! ⑤ 東 区 地元企業の連携による地域貢献活動	6
高校生が自分達で考え、始めた学習支援 ⑥ 西 区 浜松湖東高校子ども学習支援「コトバショ」	7
人から人へと繋ぐもの ⑦ 南 区 制服・用品リユース	8
ママたちでつくりあげていく子育てサークル ⑧ 南 区 mama plus	9
「おなかいっぱい」地域のレストランの子ども食堂 ⑨ 北 区 とんきい子ども食堂	10
生活に寄り添う移動販売 ⑩ 北 区 移動スーパー	11
地域ぐるみで取り組む買い物支援 ⑪ 浜北区 ほっとねっと鹿玉(買い物支援)	12
みんなで支える仕組みづくり ⑫ 浜北区 北浜なか地区家事支援の会	13
「欲しい」と笑顔を地域に届ける ⑬ 天竜区 移動スーパー	14



## 1. 小地域福祉活動とは

小地域福祉活動とは、住民の日常的な暮らしにおいて、身近でなじみのある自治会や小学校区などの地域を範囲として、住民が主体となって行う組織的な福祉活動です。

その地域で生活を送るうえで、住民にとって共通の課題となっていることや、問題が起こることを防ぐために、住民が力を合わせて取り組むための組織をつくり、住民同士のつながりづくりや、日常的な助け合いの活動、活動の担い手づくりなどを地域の状況に応じて展開します。

しかし、すべて住民だけで行う、あるいは行わなければならないものではありません。住民の力だけでは解決が困難な問題については関係機関や専門職と共に考え、解決をめざします。

## 2. 小地域福祉活動の内容

小地域福祉活動は、地域で起こっている、あるいは起こりそうな「問題」について、住民自身が考えたり調べたりして、具体的に取り組んでいく「課題」としていくことから始まります。

そして、その「課題」に対してどのように取り組むのかを話し合い、合意形成をして課題に応じた具体的な活動が開始されます。したがって、活動は多様なプログラムが生まれますが、現在市内で実施されている活動は、「つながりづくり（ニーズの発見）」、「見守り（孤立防止）」、「生活支援（ゴミ出し、買い物、外出支援等のちょっとした生活の手助け）」の3つに大きく分類することができます。

また、これらの活動は、1つの活動で終わる（完結する）ものではなく、活動を通して気づいた課題に応じて、他の活動にも展開していきます。

## 3. 小地域福祉活動の展開

小地域福祉活動を行うためには、どんなことを行っていけばいいのか、一般的な展開方法を紹介します。

### 住んでいる地域の困りごとを知ろう

困りごとは、ひとりの問題ではなく、みんなの問題です。まずは、地域にある困りごとを調査し把握しましょう。

### 地域のことを知り、分析しよう

改めて地域を調べ、分析することでこれまで見えなかったことが見えるようになります。

### 活動を始めるための準備をしよう

地域で活動している団体を調べたり、同じ想いの人や関係者とつながりましょう。

### 活動の継続のために計画をつくるう

計画を立てる上でのポイントや注意点を考え、仲間で共有しましょう。

### 実際に活動してみましょう

活動は無理せず、1人で抱え込まず楽しくみんなで行いましょう。

実践するために必要なことを学びましょう。

### 活動をふりかえってみましょう

計画と活動を見比べ、評価してみましょう。課題と対応策をみんなで話して次の活動に活かしましょう。



# 活動事例 ①

マンション住民の憩いの場

## 見晴らしカフェ

曳馬地区社会福祉協議会

作成者：CSW 青木 優花

### 基本情報

- 活動場所…サンポートハイツ（中区）
- 活動頻度…月1回 第1月曜日 10:00～12:00
- 利用料…100円（協力金として）
- 構成員…約5名

### キーワード

#見守り #地域カフェ #住民交流 #居場所

### ■活動を始めたきっかけ

マンションの管理組合の方から、マンション住民の高齢化が進み、高齢者のみの世帯やひとり暮らしの方が増加する中、マンション特有の住民の孤立化が課題であるという話が挙がりました。そういった課題から、マンション住民が交流できるような居場所づくりが必要であると感じ、活動の実施に向けて動き出しました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

カフェを始めるにあたって、管理組合の方とカフェの開催方法について話し合いを重ねました。また自治会や地区社会福祉協議会、シニアクラブ、地域包括支援センターとも協議をし、カフェの立ち上げに至りました。その際に、他地区でのカフェ活動を見学するなど、開催に向けて準備を進めていき、令和4年6月から活動を始めました。

### ■活動内容

見晴らしカフェでは、誰もがふらっと気軽に立ち寄ることのできる交流の場を目指しています。そのため活動内容を決めず、お茶とお菓子でおしゃべりを楽しむことをメインとしています。机には卓上ゲームやトランプ等を置いてあり、それらをきっかけに話が盛り上がることもあります。開催にあたっては、地域包括支援センターの職員も参加しているため、介護保険のことなどについて気軽に聞ける相談場所にもなっています。また、民生委員・児童委員も参加しており、見守りの場にもなっています。

### ■実績・効果

参加者同士で交流し、つながりができたことで、お互いに見守り、気にかけあう関係づくりにつながっています。また、特定の活動に拘らないカフェスタイルでの開催だからこそ、誰もが自由に参加しやすい環境になっています。

### ■今後の展開

今後も月1回の開催を続けていき、住民にカフェ活動を周知していきたいです。世代を問わず、誰もが気軽に立ち寄れて、参加者同士でおしゃべりし、思い思いに過ごせることのできる交流の場にしていきたいと思います。



# 活動事例 ②

デジタル化先進自治会の取り組み

## ホームページやLINEを活用した自治会活動

### 和合町自治会

作成者：CSW 伊藤 優太

#### 基本情報

- 活動場所…和合町
- 活動頻度…月に数回更新
- 利用料…なし
- 構成員…和合自治会員

[HP]



和合町自治会

#### キーワード

#自治会活動 #デジタル化 #HP(ホームページ) #LINE(ライン)

#### ■活動を始めたきっかけ

和合町では、共働き世帯の増加をはじめ、町民の世帯が変化しています。

今まででは、回覧板を回しての情報発信をしていました。しかし、「行事があっても知らなかった」、「回覧板ではお知らせを見ていない」など、回覧物が町民の方に読まれていない。そのため、自治会活動の認知度が低いことに課題を感じていました。現在では、多くの方がパソコンやスマートフォンを持っています。ホームページで情報発信を行えば、いつでも、どこでも自治会からの情報や活動を多くの方に知つてもらうことができます。また、自治会のPR活動や回覧物配布の負担も減らすことができると考え、活動を始めることになりました。

#### ■工夫・活動開始までの流れ

デジタル化への思いを自治会で共有し、自治会長からデジタル分野に詳しい人材(人財)である方に声をかけました。当初は無料のホームページをいくつか試した後、より良いホームページを実現するためにレンタルサーバーを調達しました。

また、その方を中心に準備委員会を立ち上げ、掲載内容の検討を行なながら進めてきました。

パソコンだけでなく、スマートフォンでも閲覧できるよう工夫をしています。

#### ■活動内容

ホームページを活用し、自治会情報や防災情報、各種団体など町民に向けた情報発信を行っています。ホームページ内には、デジタル回覧板を見ることができる、町民からの投稿ページがあるなど、住民も参加しやすい工夫をしています。

また、自治会公式のLINEも運用し、多くの町民が情報を得られるよう、様々なデジタル化の活動に取り組んでいます。

#### ■実績・効果

デジタル化の目的は町民のコミュニケーションを活性化させ、自治会活動への意識向上にあると思っています。少しずつですが、ホームページや記事の内容が話題になることが増えてきました。

また、紙の回覧板では中身をあまり読んでもらえなかったものも、デジタル化により情報の保存ができるようになりました。過去の記事も含め、いつでも確認ができるため、若い世代をはじめ、町民からはイベント情報などが確認しやすくなったという声をいただいているです。

#### ■今後の展開

まだまだ十分に普及しているとは言えない状況です。引き続き、デジタル化を1つの手段として町民のコミュニケーションと自治会活動への参加意識の向上につなげていきたいと思っています。

地域には様々なことに詳しい住民がいます。これからはたくさんの町民にもホームページに参加してもらいたいです。また、デジタル機器の扱いが苦手な方も多くいます。その方たちもデジタル化を利用できるような環境整備も必要だと感じています。



# 活動事例 ③

中学生が地域活動に!

## 中学生ボランティア(家事支援活動)

西地区社会福祉協議会 家事支援部

作成者: CSW 玉澤 彰人

### 基本情報

- 活動場所…依頼主の家
- 活動頻度…月2回程度（日曜日）
- 構成員…30名ほど

### キーワード

#家事支援活動 #地域のたすけあい #中学生ボランティア #コミュニティ活動

### ■活動を始めたきっかけ

西地区は、浜松の中心市街地の西側に位置する10町で構成されています。人口13,889人、6757世帯の地区です。もともと西地区社協の家事支援部の活動として、ひとり暮らし高齢者等への草取りや水やり、ゴミ出しのお手伝いなどを実施しており、特に草取りは依頼件数が多くありました。しかし、草取りの家事支援活動者は10名程度で、高齢化や人手不足といった課題があつたことがきっかけです。

### ■工夫・活動開始までの流れ

3年ほど前、地区社協と西部中学校との間で、生徒が地域の人たちとコミュニティ活動をする機会を持ちたいという話になりました。

そのような中コロナ禍になり、なかなか活動が出来ませんでしたが、昨年度から学校側と本格的な話し合いを行い、今年度から実施することになりました。

地区社協家事支援部の課題と、学校側の希望がちょうどマッチした形になりました。

### ■活動内容

地区社協家事支援部が地域の住民から草取りの依頼を受けた後、学校にボランティア募集の依頼をします。

学校でのボランティアの取りまとめは担当の先生が行い、地区社協側と調整します。活動数日前には、地区社協担当者が中学生ボランティアに対し、活動の説明を行います。

実施当日は、活動場所に集合してもらい、9:00～10:00の活動しやすい時間帯に草取りを行います。

### ■実績・効果

依頼主からは、庭がきれいになったという草取りの効果に加え、中学生がボランティアとして来てくれるでの、活気があり作業も進むので嬉しいという声も聞かれます。

また、生徒の親御さんも家事支援活動に参加するなど、活動の輪が広まっています。

他にも、地域の住民からも称賛されており、草取り活動中に労いの言葉をいただきたくこともあります。

生徒からも、「大変だけど、終わった後の達成感がすごい」、「地域の人の役に立っている感じがある」など、活動を通して前向きな意見も挙がっています。

そして何より、生徒と一緒に活動することで、今の子どもたちの様子を知ることができ、地区社協と生徒の交流する良い機会になっています。



### ■今後の展開

今後は、この活動以外にも地区社協の事業など様々な活動に参加したり、中学校を卒業しても、活動を続けてほしいと願っています。

また、中学校で生徒たちがボランティア部などを立上げ、自主的な活動を行い、継続的につながりを作っていくと願っています。

# 活動事例 4

地域の子どもは地域全体で育てる!

## 夏休み学習ボランティア事業

### 積志地区社会福祉協議会

作成者：CSW 高桑 映子

#### 基本情報

- 活動場所…浜松市立中郡、大瀬、積志、有玉小学校、協働センター等
- 活動頻度…夏休み期間の3～5日間
- 利用料…なし ●構成員…60～70名

#### キーワード

- #学習サポート
- #学校と地域の連携
- #生きがい
- #いじめ
- #ふれあい

#### ■活動を始めたきっかけ

中学生が学校に馴染めないことや、いじめの要因になることの一つに学力不足が関係していると感じ、小学生の時から意欲的に学ぶ姿勢を向上させることが必要と感じました。そこで、地区社協として何かできないかと平成26年度に中郡小学校校長にそのことを伝え相談したところ賛同され、子どもたちが夏休みの宿題に取り組む際、地域の大人が見守ることで学習へのサポートができるのではないかと考え、平成27年度から学習ボランティア事業に取り組み始めました。

#### ■工夫・活動開始までの流れ

平成27(初)年度は中郡小学校で3、4年生を対象に、学校の協力を得て参加児童を募ったところ90人もの希望がありました。しかし、対応が難しかったため人数を減らし、地区社協や民生委員・児童委員、自治会、活動者の同級生などに声をかけ、とても苦労しましたがなんとか16名のボランティアを集め、夏休みの期間前半5日間で実施することができました。

#### ■活動内容

「学習ボランティア」は塾のように勉強を教えるのではなく、勉強する環境を作ることを心掛けます。そして子どもが、夏休みの宿題に自主的に取り組むお手伝いをします。答えの丸つけをボランティアが行い、時には褒め、間違ったときは教科書に戻り一緒に確認し、なるべく自分の力で解決できるようサポートします。そのようにしてできた時の喜びが達成感につながりました学習しようと思う、その気持ちを育んでもらえるようにしています。

中郡小学校で実施したことが親子とも好評で、平成28年度からは地区内にある4校すべての小学校で実施しています。

ボランティアには地域内の浜松日体高等学校の生徒にも協力いただき、高校生たちの地域活動・ボランティア活動へのきっかけづくりにもなっているのではと感じています。

#### ■実績・効果

各学校で30人の児童と延べ約70人のボランティアが関わっています。小学校が用意する「がんばりカード」に自分で出来なかったことを記入することで、不得意なところを見つめ直すきっかけにもなっています。

参加した児童の保護者からは「辞書を使って自分で調べるようになった」「自分から行きたいと言って、子どものためにとてもプラスになった」など次の活動につながる嬉しい声をいただいている。

また、令和4年度は、卒業した中学生に母校での学習ボランティアに関わっていただくため、中学生にボランティアを募りました。すると、予想以上の申し込みがあり、地区社協の活動を通して若い世代への意識付けを図ることができたのではないかと考えます。



#### ■今後の展開

将来的には対象の学年を5、6年生まで広げたいと考えています。また、中学生のボランティアもより多く協力していただくために、常に学校と連携を図っていくことが重要だと思います。

宿題に取り組む子どもたちは自主性や協調性を育くみ、また、それを見守る地域の学生や大人達は自身の喜びや生きがいにつながります。

この学習ボランティア事業に限らず、様々な人たちが連携協力し地域でできることに取り組んでいくことが大切だと考えています。



#### その他の情報!

積志地区社協では、子どもからお年寄りを対象とした事業を実施しています。家事支援事業「ちょっとお手伝い」が活動の中心になりますが、積志地区内の公立幼稚園と保育園の四園合同事業も行っています。積志中学校、中郡中学校と連携して福祉の授業などのお手伝いもしています。

くらしをちょっとゆたかに!

## 地元企業の連携による地域貢献活動

### 一般社団法人 HOT プロジェクト

作成者: CSW 伊藤 翼

#### 基本情報

- 活動場所…主に東区
- 活動頻度…常時
- 利用料…無料
- 構成員…新聞販売店3店他

#### キーワード

#知る #学ぶ #地域活性化 #知らせる

#### ■活動を始めたきっかけ

新聞配達をしていると必然的に高齢者等の異変を発見する機会があります。郵便受けに新聞が溜まっていたり、夜中なのに照明がつけっぱなしになっていたりと異変を感じ、地域包括支援センター等の協力を得て家の中を確認すると、人が倒れていたというようなことがあります。特に、近年では高齢化が進んだことにより、そうしたケースが更に増加したと感じています。

#### ■工夫・活動開始までの流れ

そうした活動が高齢者等の“見守り”に繋がるのですが、活動していく上で地域包括支援センターや民生委員・児童委員等とより綿密な連携が取れれば、“見守り”の質の向上に繋がるのではという想いから、民生委員・児童委員、行政、専門機関が連携し地域全体での見守り体制を整備することを目的に設置されている「東区あんしんネットワーク連絡会」へ参加するようになりました。民生委員・児童委員や専門機関等と情報共有していく中で、高齢化や孤立化等が進む地域の実状を知り、見守りとは別に情報発信の場が必要だと感じ、新聞販売店等数社が集まり「HOTプロジェクト」の立上げとなりました。

#### ■活動内容

地域住民の“くらしをちょっとゆたかに”することを目的に、健康や医療、相続や資産、税金等の話から、JAXA職員による宇宙をテーマにした話など、幅広いテーマの講演会を年数回無料で開催しています。

最近ではコロナウイルスにより打撃を受けた農家救済の為の直売会を開いたり、講演会よりも小さな規模で、地域のお寺などを会場にカルチャー教室も開催したりしています。

#### ■実績・効果

講演会の延べ参加者数は3,350人に達し、参加者によるアンケートでは全体の97%から好評を頂けています。

一度参加してくれた方が、再度別の講演会に参加してくれることも多々あり、中には孫と一緒に参加される方もいます。

様々なテーマの講演会に参加することで、日々の生活を充実させる為のノウハウを知ったり、健康でいることについての意識啓発にも繋がったりします。そうしたことが地域の活性化や住民同士の交流、助け合いにも発展していくと期待ができます。



#### ■今後の展開

新たな取り組みとして、障がい者相談支援センターと一緒に障がいに対する理解を深めるための講座の開催や、行政と連携し雑紙削減に関する取組みを検討しています。

従来の講演会についても、毎回のアンケートを参考に地域住民が関心のあるテーマで実施できるようにしたいと考えています。

また、今後は区の再編も見据えて、広いエリアで活動ができるようにしていきたいです。



# 活動事例 ⑥

高校生が自分達で考え、始めた学習支援

## 浜松湖東高校子ども学習支援「コトバショ」

静岡県立浜松湖東高等学校

作成者：CSW 船越 新平

### 基本情報

- 活動場所…神久呂協働センター
- 活動頻度…月2回
- 利用料…無料
- 構成員…主に湖東高校生

### キーワード

#学習支援 #子どもの居場所 #高校生 #学生ボランティア #自分達で考える

### ■活動を始めたきっかけ

市社協の行っている学習支援にボランティアとして参加していた生徒が、「様々な家庭の状況により、勉強が難しい環境にいる子どもたちがいる」ということを知り、「自分たちにも何かできないか」と考えたことがきっかけです。

### ■工夫・活動開始までの流れ

学習支援の対象者を限定せず、小学生から中学生まで誰でも参加できるように工夫をしています。また、地域にある神久呂中学校へ行き、昼の放送時間に学習支援をPRしたり、SNSを活用した情報発信もしています。

### ■活動内容

1人の児童・生徒に対して2~3人のボランティアがつき、学びたい教科を教えています。学習に取り組みやすい環境づくりとして、年度の初めにはアイスブレイクタイムを設けるなど、子どもたちに早く「コトバショ」に慣れてもらえるよう工夫をしています。また、学習支援の終わりにはみんなで振り返りを行っており、参加した児童・生徒の学習の様子や進み具合を共有しています。

### ■実績・効果

活動を始めた当初は2名でした。しかし、今では13名の児童・生徒が参加してくれるようになりました(R4.7月現在)。地域の方々にもこの活動が広まってきており、差し入れを持って来てくれるなど応援をいただいている。また、令和4年度の夏休みには神久呂地区社協の行う「まなびの寺子屋」に協力をしました。

### ■今後の展開

浜松市は、外国籍の方が多く暮らすまちです。今後は、外国籍の子ども達にも参加してもらえるように、やさしい日本語でチラシも作っていきたいと考えています。また、今の会場(神久呂協働センター)が遠くて通えない子どももいると思われる所以、実施する会場を増やすことができないかということもみんなで考えています。



# 活動事例 7

人から人へと繋ぐもの

## 制服・用品リユース

NPO法人 TeToTe

作成者：CSW 金沢 拓歩

### 基本情報

- 活動場所…浜松市南区新橋町851-3
- 活動頻度…連絡があれば個別対応
- 構成員…6名

### キーワード

- #制服・学用品のリユース
- #先輩から後輩へ
- #人と人とのつながり
- #中学生・高校生
- #地域社会への寄与

### ■活動を始めたきっかけ

知人から、制服が買えなくて高校へ行くことを諦めた子がいることや、ひとり親家庭や外国人家庭から学用品に関する悩みを聞いたことがきっかけでそのような子ども達の手助けを行うことが出来ればとの思いから、平成28年に中学校、高校の制服や学用品のリユース活動を主とするNPO法人TeToTeの設立に至りました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

まずは皆さんに活動を知っていただくために、活動の周知に力を入れました。ホームページや同窓会の資料や新聞への掲載を行いました。その後、教育委員会等の行政機関からも様々な協力をいただき、現在は少しづつ活動の認知がされてきて、スクールソーシャルワーカー等からも譲って欲しい方のお問い合わせを多数いただいているような状況です。

### ■活動内容

使用をしなくなった制服と学用品を直接持ち込みや着払い宅配にて寄付をしていただき、必要な方に制服は1枚につき1,000円、学用品一点500円、管理費1,000円で提供をしています。また、売上金は月に一回程度ボランティアに来ていただき、保管在庫の整理整頓や名前の刺繍取りをお願いする費用にあてています。

### ■実績・効果

年々寄付が増加しています。利用者についてもスクールソーシャルワーカーや区役所や教育委員会からの情報提供もあり利用者が増加しています。大切な思い出の詰まった制服を必要な人がいるのなら使って下さいと沢山の方が寄付をして下さっています。

寄付していただいた制服を試着して嬉しそうにしているお子さんの顔を見て、保護者の方からもありがとうと言っていただけたり、保護者の方にとっては制服代を他の費用に使用することができ、困っている世帯への手助けにもつながりやりがいのある活動だと感じています。

### ■今後の展開

継続して現在の活動を続けていくことはもちろん、NPO法人TeToTeの活動をもっとたくさんの方に知っていただき、先輩から後輩に譲り渡すという文化も地域に広めていきたいと思います。また、制服の刺繍取りや整理整頓をしていただけるボランティアを募集しています。現在寄付していただいた制服等の保管場所を必要としているため、ご協力いただける方を募り、さらにより良い活動にしていきたいです。



# 活動事例 8

ママたちでつくりあげていく子育てサークル

mama plus

白脇地区社会福祉協議会

作成者：CSW 笹本 美和

## 基本情報

●活動場所…白脇協働センター ●活動頻度…月1回（毎月第2木曜日）

●利用料…1回500円程度 ●構成員…スタッフ6名 親子10組（妊婦さんやママのみの参加も可）

## キーワード

#ママ

#子育て

#ママリフレッシュ

【公式LINE】



## ■活動をはじめたきっかけ

白脇地区社協では「子育てサロンハッピー」という活動を行っています。活動のなかで「転勤で浜松へ来て、日中子どもと2人で誰とも話ができないけれど、ここに来ると自分と子どもの名前を覚えて呼んでもらえることが嬉しくて、毎回参加するのを楽しみにしていた」というママの思いを聞く機会がありました。そうしたママの気持ちを聞いたことで、「子育てに孤独を感じているママたちをもっとフォローしたい」という思いが強くなり、ママ主体の子育てサークルとして「mama plus」を新たに立ち上げることになりました。

スタッフたちのような若い世代も地域の活動に関わることで、子育て世代にとっても過ごしやすい地域づくりにつながるのではないかと感じています。

## ■工夫・活動開始までの流れ

子どもを連れながら活動に携わり、地域の方が子ども達を可愛がってくれる中で自分の得意なことを地域の人のために活かせることは、スタッフたちにとって心地よく感じられました。

サロン活動のなかで子育てママに伝えたいことや取り組みたい内容が沢山ありましたが、月1回の開催回数のなかではできることにも限りがありましたので、mama plusでは「ママ」に焦点を当てて内容を考え開催していくことになりました。活動を始めるにあたっては、以前子育てサロンハッピーに参加していたママたちに声をかけてスタッフを募り、「人の役に立ちたい。地域に貢献したい」という思いをもった現役ママたちが集まって、mama plusをスタートすることができました。

## ■活動内容

「子育てをしていても1人の女性として輝く時間はとても大切」という思いのもと、ママたちが自分を発揮できる場をつくりたく、毎回mama plusの講師は「子育て中のママ」にお願いしています。ママと同じ部屋でスタッフがお子さんを見ることで、ママが安心して自分のこと集中できる時間をつくっています。テーマは毎月違い、ママに創作活動をしてもらうこともあれば、ベビーマッサージなど親子で一緒に過ごす回もあります。mama plusに来て、ママ同士でお互いに情報交換することが、スタッフにとっても日々の生活のプラスになっていると感じます。

## ■実績・効果

毎回、mama plusへの参加は申込み制にしています。各家庭で抱えている課題はそれぞれだと思いますが、子育てに辛さを感じているママもmama plusに来てお話してくれるようになり、「孤独を感じているママをフォローしたい」という活動当初の思いが地域に届き始めていると感じます。



## ■今後の展開

スタッフも含め、みんな同じ子育て中のママですので、距離感のない居心地のいい時間・場所になるようにしていきたいです。mama plusや子育てサロンハッピーの活動でお母さん同士が知り合えることで、地域のなかで孤独を感じずに子育てのできる環境づくりにつなげられたらしいなと思っています。

これからもこうして活動が続いていき、地域で大切に育ててもらった子どもたちが次の世代の地域のつながりをつくってくれたらと願っています。

### <SNSツールの活用>

mama plusも子育てサロンハッピーもチラシで活動日時をお知らせし、申込みはLINEで受付けています。参加者への連絡やちょっとした情報発信などにもLINEを活用しています。また、mama plusではインスタグラム、子育てサロンハッピーではブログを使ってその日の活動の内容や雰囲気を紹介しています。

### <専門機関とのつながりについて>

浜松市内には様々な相談機関がありますが、必要としているのに相談先を知らない人も多いのではないかと感じます。地域で活動している私たちが専門機関の情報を知っていることで、相談が必要な人に情報を伝えていくことができると思い、研修会などにも参加しています。



# 活動事例 9

「おなかいっぱい」地域のレストランの子ども食堂

## とんきい子ども食堂

有限会社三和畜産

作成者：CSW 三室 勇樹

### 基本情報

- 活動場所…農家のレストランとんきい
- 活動頻度…月1回
- 利用料…小学生以下 200円 中高大学生 300円 大人 400円
- 構成員…とんきい従業員

### キーワード

- #とんきい
- #子育て支援
- #子ども食堂
- #フードロス
- #地域のつながり

### ■活動を始めたきっかけ

子どもの貧困などの報道が多くある中で、子ども食堂について関心がありました。また、自社の製品で廃棄になってしまう食材もあったため活用する方法を検討していました。

開催に向けてどのように動いていけばよいかと考えていたところに、市社協からモデル事業の話を受けて、試験的に実施に向けて動き始めるきっかけになりました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

市社協の歳末福祉事業として子ども食堂モデル事業をきっかけに試験的に活動をスタートさせました。

開催まで、市社協職員と、日程や周知の方法、内容などについて打合せを行いました。

近隣の子どもに関する施設等にポスターの掲示やチラシの配架をしてもらったほかに、とんきい公式のSNSアカウントを活用して周知を行いました。また、地域に古くからある会社であるため地元住民の方の口コミも活用しました。

### ■活動内容

事前に申し込みのあった世帯を対象として月に1回、第2金曜日の夕方5時から夕食の時間帯に開催しています。当日は、自社製品を使っているミニビュッフェコーナーを子ども食堂として開放し、思い思いの食事をとってもらっています。食事が終わったら、使った食器は子どもたちが自分でキッチンに戻すようにしてもらっています。

### ■実績・効果

店舗周辺の世帯が多く利用をしています。今まで市内の他区で開催されている子ども食堂を利用していましたが、身近なところで開催されるようになりうれしいといった声を聞くことができました。子どもだけでなく親同士も日常の情報交換をするなど交流の場になっています。

活動に関心をもってくれた近隣の農家などの生産者からも物品の寄付があるなど地域の中で子ども支援への関心が高まるきっかけになったのではないかと思います。

### ■今後の展開

食事の提供だけでなく近隣の大学等と連携をして学習支援も実施を計画しています。大学生等が学習支援にボランティアとして参加をした場合にはお礼として食事の提供をするなどの学生支援も行っていきたいと考えています。



# 活動事例 10

生活に寄り添う移動販売

## 移動スーパー

株式会社遠鉄ストア

作成者：CSW 中西 健太

### 基本情報

- 活動場所…細江、引佐ほか(北区)
- 活動頻度…各家庭に週1～2回
- 利用料…商品1点につきプラス10円
- 構成員…販売パートナー1名

### キーワード

#遠鉄ストア #移動スーパー #+10円ルール #買い物支援 #見守り活動

### ■活動を始めたきっかけ

気軽に移動できる距離に買い物できる場所がない方や免許返納により外出が難しくなった方の支援をするため、移動スーパーを始めました。販売を行う販売パートナー(個人事業主)と話し合ったところ、高齢者が多い地域であり買い物に困っている方が多かった細江・引佐地域を中心に実施することになりました。

### ■工夫・活動開始までの流れ

事前に自治会長や市社協、地域包括支援センター等の関係機関に事業説明や地域特性・ニーズを聞くようにしています。また、地域によって好まれる商品が異なるため、販売パートナーが回るルートによって積む商品を変えるなどの工夫をしています。

### ■活動内容

週に1～2回、個人宅や施設に訪問して刺身、寿司、惣菜、肉、野菜、果物、パン、お菓子、お米、日用品など遠鉄ストアのお店にある商品をたっぷり積み込んで1品プラス10円で販売しています。希望の商品が乗っていなかった場合は、注文をいただければ次回持っていくような対応をしています。また、買い物支援だけでなく、利用される方の見守り活動もするようにしています。

### ■実績・効果

利用される方の大半が高齢者で「家の前まで来てくれて助かる」「重たいものを持たなくてよいので助かる」といった声をいただいています。また、近所の方が買い物に来られることがあるので、挨拶程度であったご近所さんの会話が生まれる場にもなっています。

### ■今後の展開

細江・引佐地域エリア以外でも移動スーパーを展開していますが、店舗を構える地域で販売エリアを広げていき、生活に寄り添った支援を拡大していきます。



地域ぐるみで取り組む買い物支援

## ほっとねっと鹿玉(買い物支援)

### 鹿玉地区社会福祉協議会

作成者：CSW 中島 真和

#### 基本情報

- 活動場所…浜北区鹿玉地区 問合せ先は鹿玉協働センター ボランティアコーナー (582-3166)
- 活動頻度…毎週月・火・木・金曜日
- 利用料…無料 ●構成員…買い物支援員・家事支援員

#### キーワード

#買い物支援 #居場所 #話し相手 #見守り #とくし丸

#### ■活動を始めたきっかけ

平成25年の夏、鹿玉地区社協は、家事支援事業の取り組みを前にして、高齢者へのアンケート調査を実施しました。その結果、「困っている」と回答があった内容の1位が草取り、2位が買い物でした。その後、買い物支援を模索する中で実現したのが、杏林堂が開始した移動販売サービスと地域が連携する方式で、平成29年4月から活動を開始しました。

#### ■工夫・活動開始までの流れ

買い物支援をする場所は、各町内会での検討を経て、9か所で開始しました。

#### ■活動内容

毎週、決められた時間・場所に杏林堂の移動販売車(とくし丸)が来ます。その30分ほど前から利用者(主に高齢者)が集まり、世間話に話が咲きます。買い物支援の場所は、買い物支援というだけでなく、小さな居場所にもなっています。支援員は、見守りだけでなく、椅子の準備、高い位置にある商品を取る手伝い、荷物を家まで運ぶなどの支援をしています。また、利用者の話し相手にもなっています。

#### ■実績・効果

令和3年度の利用実績は、販売か所が15か所、利用者が3,967人、参加支援員が1,938人でした。これは延べ人数ですが、鹿玉地区の総人口約1万人から見ても多くの方が利用しています。9か所で始まった買い物支援は、令和4年7月からは、新たに大平地区で開始し、現在では16か所に増えました。大平地区的支援員は、「今は、家族がやってくれて間に合っているが、将来を考えるとこの活動がどうしても必要」と語っています。

#### ■今後の展開

後継者の育成が課題です。買い物支援が始まって5年が経過しました。支援員は発足当時のメンバーが多く、引継ぎの時期にきています。今の支援員が、免許証を返納するなどして買い物が大変になる頃も、安心して買い物支援を利用できるよう、後継者づくりをしていきたいと考えています。また、支援を通して、人と人との交流の場が増えていくのが望ましいと考えます。そのためにも、必要な場所に買い物支援の拠点を増やしたいです。

#### ■他の情報！

家事支援事業部「ほっとねっと鹿玉」では、毎月、鹿玉地区の大屋敷公民館で支援交流会を開いています。ここで、買い物支援と家事支援について、困っていること、気になること、改善できることを話し合っています。それが、スキルアップやモチベーションの維持につながっています。



みんなで支える仕組みづくり

## 北浜なか地区家事支援の会

### 北浜中地区社会福祉協議会

作成者：CSW 塚田 直緒子

#### 基本情報

- 活動場所…北浜中学校区内
- 活動頻度…一年を通して活動（年末年始は休業）
- 利用料…どんな支援でも30分300円
- 構成員…北浜なか地区家事支援の会協力員49名

#### キーワード

- #ちょっとした困りごと
- #高齢者支援
- #心の支え
- #生きがい
- #利用者と支援者の交流

#### ■活動を始めたきっかけ

北浜中学校区内に一人暮らしの高齢者世帯が目立つようになりました。昔は近所の人同士が助け合っていましたが、忙しいことやお互いに干渉しない雰囲気があります。また、様々な福祉サービスがあるが、制度の狭間で支援を受けられず、困っている人がいます。誰もが安心して自分の地域で生活していくためには、地域住民が自分の持てる力を少しづつ出し合って支え合える仕組みを作る必要があったことがきっかけです。

#### ■工夫・活動開始までの流れ

「家事支援事業」について、市社協職員から詳しく説明を受け、「地域ボランティアデビュー講座」の受講者を募って「準備委員会」を立ち上げて検討を重ね、地区社協の役員会で再検討し、よりよいものにしていきました。家事支援事業が必要か、住民にアンケートを実施した後、平成28年度に家事支援事業が立ち上りました。支援をしていく中で、足が悪くて長距離を歩けず、買い物に苦労しているという声や、受診するのに電車やバスを乗り継ぐ必要があり、一日がかりになってしまいういう声が聞かれました。なんとか支援できないかと考え、「移動支援検討会」を立ち上げました。勉強を積み重ねたり、市社協のアドバイスを頂いたりして、令和2年11月に「移動支援」を活動内容に加えました。

#### ■活動内容

家庭内の困りごととして、買い物、ゴミの片付け、家の掃除、郵便出し、草取り、話し相手を想定して支援を始めたが、徐々に住民の要望が増えてきました。現在は、入浴時の見守り、障子貼り、電球の交換、エアコン掃除、ガラス拭き、低木の刈込、家具の移動、繕い物等を加えて活動しています。令和3年度は266件の支援を行った。中でも、移動支援は通院やワクチン接種、買い物、お墓参りなどの利用が増えてきて、年間で54件の支援をしました。

#### ■実績・効果

自分の地域に、困った時に助けてもらえる家事支援事業があるということが住民の安心につながっています。特に移動支援においては、支援者が同行することで体調が悪くなってしまっても側に助けてくれる人がいることが安心できるようです。支援者にとっては、自分自身が高齢者になっても人のために役立ち、社会の一員として活躍できる喜びを感じることができ、日々をいきいきと過ごすことができます。「ありがとう、とても助かった。」という声に励まされて活動しています。

#### ■他の情報！

「できることは何でもやるよ。」を合言葉に活動に励んでいる。相談を受けた内容を「それは無理だね。」と簡単に断るのではなく、調整員が訪問して詳しく困りごとを聞くことで、「支援できる方法はないか。」を考えるようにしています。やむを得ず断ることになってしまっても、顔を見てお話を伺うことで、北浜なか地区家事支援の会の意図を理解してもらうことができ、今後に繋がっています。

#### ■今後の展開

今後、ますます一人暮らしや高齢者世帯が増えていきます。それに伴って家事支援事業の活動がさらに求められます。活動が継続していくような仕組みづくりを、自治会の理解と協力を得て、作り上げていきたいです。「家事支援だより」を繰り返し発行して、この事業がもっと浸透して「ちょっとした困りごと」のお手伝いができるようにしていきたいです。



# 活動事例 13

「欲しい」と笑顔を地域に届ける

## 移動スーパー

### マックスバリュ東海株式会社

作成者：CSW 赤井 晴史

#### 基本情報

- 活動場所…熊・春野・佐久間・水窪地区
- 活動頻度…週6回（日曜日は休み）
- 利用料…購入商品（税抜）1点につきプラス10円
- 構成員…ドライバー 3名

#### キーワード

#中山間地域 #官民連携 #移動販売 #買い物支援 #住民交流

#### ■活動を始めたきっかけ

浜松市はイオングループと資源を有効活用し市の活性化に取り組むことを目的とした包括提携協定を締結しており、市内に本社を置くマックスバリュ東海株式会社と協力して中山間地域を活性化するための話し合いを進めてきました。天竜区では商店が少なく、買い物に課題を抱える高齢者が多いことから、令和3年11月より天竜区にてマックスバリュ東海の移動スーパーを運行することを検討し、開始が決定しました。

#### ■工夫・活動開始までの流れ

スズキ株式会社の協力で、冷蔵設備などを備えた移動スーパー専用車を用意しました。天竜区の各自治会に事業説明を行い、要望の大きかった熊地区と春野地区での運行が決定しました。その後、各地域の自治会長と話をしながら運行ルートや停車場所を調整しました。停車場所は公民館や空き地などの広い場所を中心に決められました。そして移動スーパーのチラシと運行予定表を全戸配布して住民に周知し、令和4年4月から運行を開始しました。

#### ■活動内容

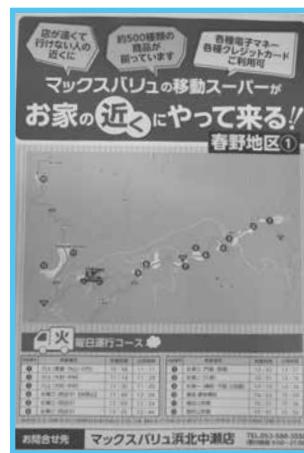
移動スーパー専用車は浜北区にあるマックスバリュ浜北中瀬店から出発します。生鮮や加工食品、日用品など約500品目が専用車に積まれており、運行の朝にドライバーが車へ野菜や刺身、お弁当、惣菜、パン、アイスなどを補充します。月・木曜は熊地区、火・水・金・土曜は春野地区を曜日によってコースを変えて運行します。停車場ではお客様に買い物力ゴを渡しながら欲しい商品を聞いて案内し、スムーズに買い物が出来るようにします。お会計では各種電子マネーやクレジットカードも利用可能です。お客様へ電子マネーカードを配布しており、それらを活用してもらうことで時短となる工夫をしています。

#### ■実績・効果

各停車場所での固定のお客さんも増えてきており、地域住民にとって欠かせないお店となっています。お客様からは「以前はバスに乗って買い物に行っていたが、近くに移動スーパーが停まるようになって助かっている」などの声も聞かれました。また、停車場所では自然とお客様同士の会話も弾み、交流の場ともなっているほか、よく利用するお客様の安否確認の場にもなっています。毎回同じドライバーが運行しているため、お客様に顔を覚えてもらい、欲しい商品を気軽に要望出来る関係づくりが出来ています。

#### ■今後の展開

令和4年7月から移動スーパー2号車が、佐久間地区と水窪地区への運行を開始しました。月曜は水窪地区、火・木・土曜は佐久間地区で運行します。今後も地域からの要望に応じて新たな運行ルートの開拓も検討しています。お客様が困らないように現在の運行ルートについては大幅な変更をせず、いつもの時間にいつもの場所で停車し、これからも地域住民の買い物を支えていきます。



## おわりに

地域のコミュニティは、家庭や個人による解決と公共による解決の間での中間的な解決機能であり、さまざまな生活問題を緩和する役割を担ってきました。しかし、今、地域という生活基盤そのものが衰退しています。特別な仕組みを設けるまでもなく自然に行われていた近隣での助け合い機能のみならず、家族間で助け合うこともままならない事態が顕在しています。また、生活が立ちいかなくなるような困難は抱えていないとしても、地域近隣からから孤立しがちな人たちの存在があります。

今回、「買い物支援」「移動スーパー」「家事援助」といった生活上の必要に密着した直接支援の活動が紹介されていますが、その活動も、生活上の具体的な困りごとを解決することだけが目的ではなく、孤立しがちな状況にある人たちが、人とかかわりあうこと、つながることを企図した活動でもあるのです。そして、人とつながることによって、いわゆる「ゆるやかな見まもり」の輪が広がっていくのです。

今日、お祭り等の地域行事、冠婚葬祭、防災への取り組み、社会教育の取り組み等、地域のさまざまな「接着剤」としての機能の維持が困難になりつつある現状が否めません。このような状況にあって、今回ご紹介した13の小地域福祉活動には、地域で人と人をつながる接点、あらたな「接着剤」として機能していくことを期待してやみません。

一方、「住民主体」という言葉が頻繁に用いられますが、「住民主体」の実現はそう容易いことではありません。昨今は、公助の必要を棚上げにしたまま、地域住民活動による互助・共助が強調される傾向があり、今の時代だからこそ「住民主体」の実現の難しさがあるのです。「政策に求められて仕方なく」ではない、「言われなくとも、必要だから行うのだ」と言い切ることのできる「住民主体」の実現をめざして、浜松市社会福祉協議会は地域の皆様とともに活動してまいります。

浜松市社会福祉協議会CSW事業アドバイザー  
聖隸クリストファー大学

川向 雅弘

## 相談受付機関 (浜松市社会福祉協議会)

浜松市にはコミュニティソーシャルワーカー (CSW) が配置されています。  
地域の福祉に関するることは、CSWが一緒に考えますので、ご相談ください。

## 社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会

### 中区・南区

浜松地区センター 中 区 成 子 町 1 4 0 - 8 TEL 053-453-0553

### 東区

東 区 事 務 所 東 区 流 通 元 町 2 0 - 3 TEL 053-422-3737

### 西区

西 地 区 セン ター 西 区 舞 阪 町 舞 阪 2 7 0 1 - 9 TEL 053-596-1730

### 北区

北 地 区 セン ター 北 区 細 江 町 気 賀 4 5 8 1 TEL 053-527-2941

### 浜北区

浜 北 区 小 林 1 2 7 2 - 1 TEL 053-586-4499

### 天竜区

天 竜 区 二 俣 町 二 俣 5 3 0 - 1 8 TEL 053-926-0322

---

地 域 支 援 課 中 区 成 子 町 1 4 0 - 8 TEL 053-453-0580  
FAX 053-452-9218

## 小地域福祉活動事例集 Part2

### ～あなたの福祉がきっとある～

●編集・発行 社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会  
〒432-8035 浜松市中区成子町 140-8  
TEL (053) 453-0580 FAX (053) 452-9218  
<http://www.hamamatsu-syakyou.jp/>

[HP]



発行日 令和4年12月

